

# 2023年12月期 決算説明資料

2024年2月13日

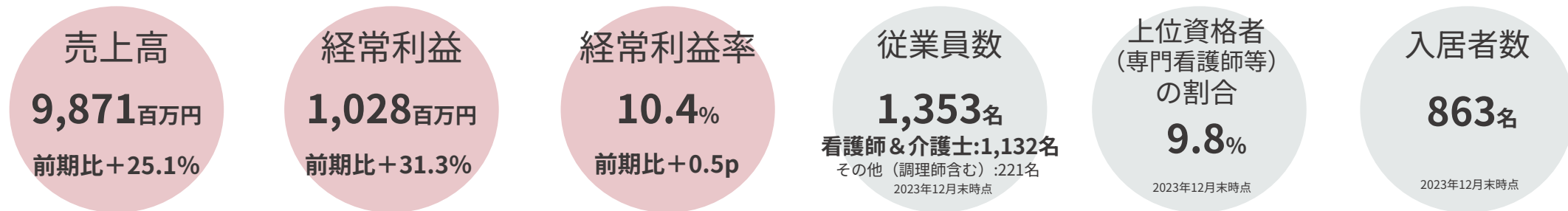
日本ホスピスホールディングス株式会社

(証券コード：7061)



- 1 . 2023年12月期 決算概要**
  - 2 . 2024年12月期 業績予想**
  - 3 . 中期経営計画（～2025年）**
- ※ Appendix**

# 2023年12月期 決算概要



- ▶ 2023年12月期は、当初計画どおり新たに9施設（313室）を開設し、東京・神奈川、大阪・京都・兵庫、愛知、北海道で、計40施設1,292室に増加
- ▶ 前年同期（2022年12月期）には立ち上げ過程にあった施設の稼働率が上昇したことにより、施設利益が増加し、新規立ち上げ施設の開設準備費用や、単月黒字化する前の施設運営赤字を回収し、増収・増益となった
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1Q以降、3Qまでは売上高・利益ともに計画どおりに進捗していたが、4Qより実施した中期成長を見据えた入居と採用に関するマネジメント体制の変更に伴い、部門間による意思決定のお見合い（入居判断等）や、それら業務に携わる人員の重複等が不可避免的に発生し、通期計画は未達となった

#### ■ 入居と採用に関するマネジメント体制の変更

従来、各施設にあったご利用者の入居（稼働）と社員の採用に関する権限及び責任を、本部に移行するプロジェクトを進めています。背景と狙いについては、14P「施設主導型から本部管理体制への移行」をご参照ください

# 2023年12月期 連結業績実績

(単位：百万円)

	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率 (%)
売上高	6,019	7,894	<b>9,871</b>	+1,977	+25.1
営業利益	598	959	<b>1,283</b>	+324	+33.8
経常利益	417	782	<b>1,028</b>	+245	+31.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	240	454	<b>681</b>	+227	+50.0
1株当たり 当期純利益 (円)	30.28	56.73	<b>84.81</b>	—	—

※百万円未満を切り捨てて表示しています。

影響額  
(百万円)

解 説

2022年12月期 経常利益

782

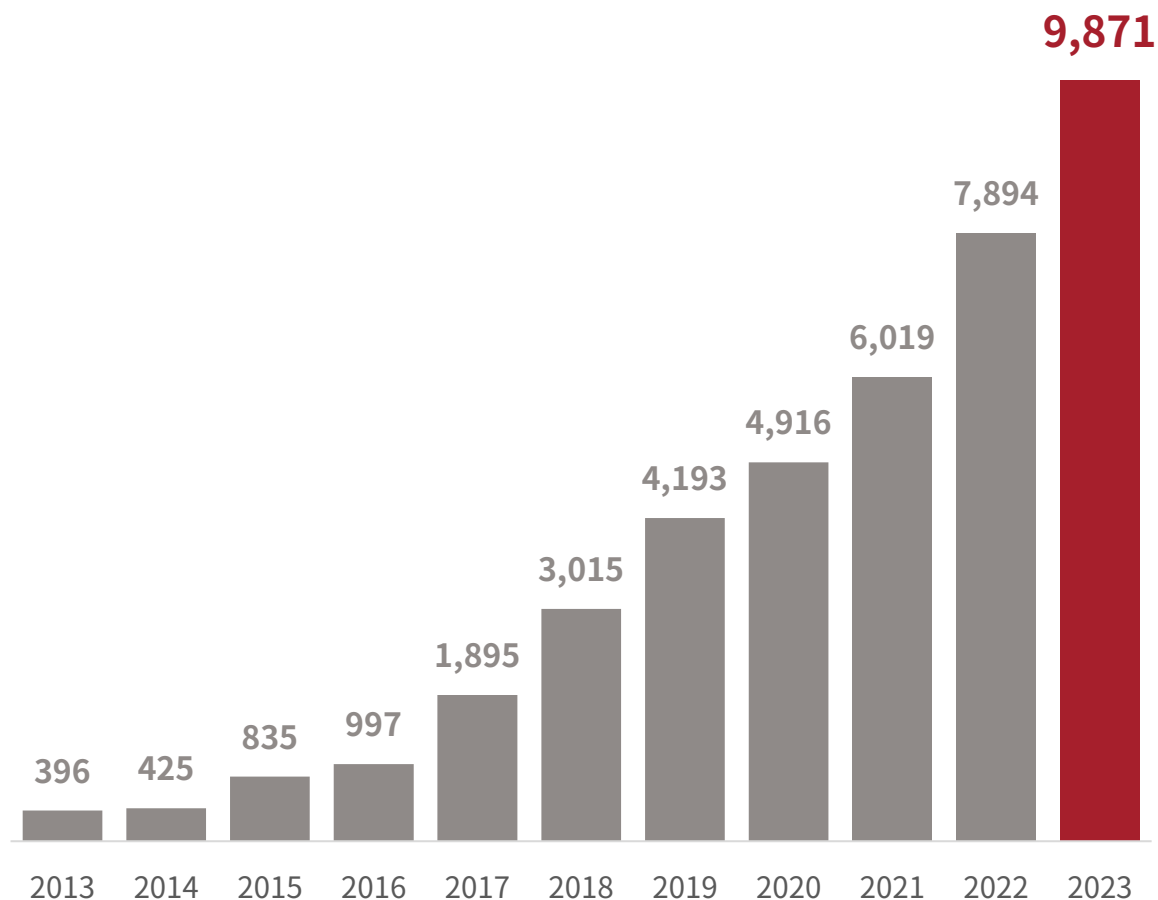
- |   |   |      |  |
|---|---|------|--|
| ① | 2022年期末時点で、既に安定稼働に至っていた施設の「貢献利益差額」          | ▲34  | 既に安定稼働となっていた19施設<br>※貢献利益差額・・・2022年 vs 2023年             |
| ② | 2022年には、立上げ過程にあった施設の「貢献利益差額」                | +590 | 立上げ過程にあった12施設<br>※貢献利益差額・・・2022年 vs 2023年                |
| ③ | 2023年に新規開設した施設（＝現在立上げ過程にある）の「開設準備コスト&運営赤字額」 | ▲149 | 2023年に新規開設した9施設  |
| ④ | 2024年1Q以降に新規開設する施設の「開設準備コスト」                | ▲14  | 2024年上半期に開設予定の施設に対する先行コスト                                |
| ⑤ | 本社・本部人件費の増加額                                | ▲65  | 2022年1Qはノーザリー社の本社・本部人件費がゼロ（買収は2022年2Q）<br>事業規模の拡大に伴う人員増加 |
| ⑥ | 採用費の増額                                      | ▲72  | 施設数増加に伴う採用費の増加   |
| ⑦ | その他   | ▲9   |  |

2023年12月期 経常利益

1,028

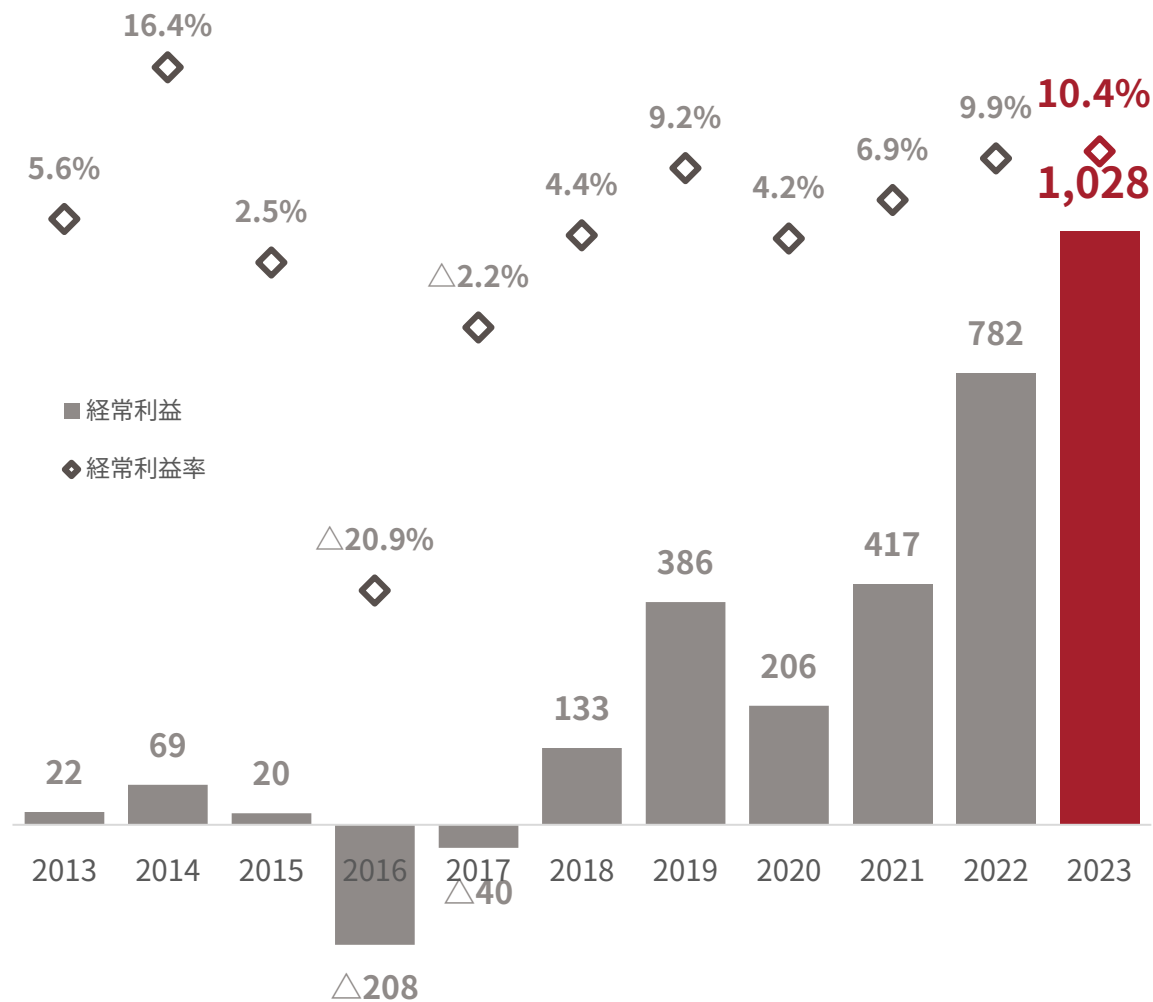
## 売上高の推移

(単位：百万円)



## 経常利益及び経常利益率の推移

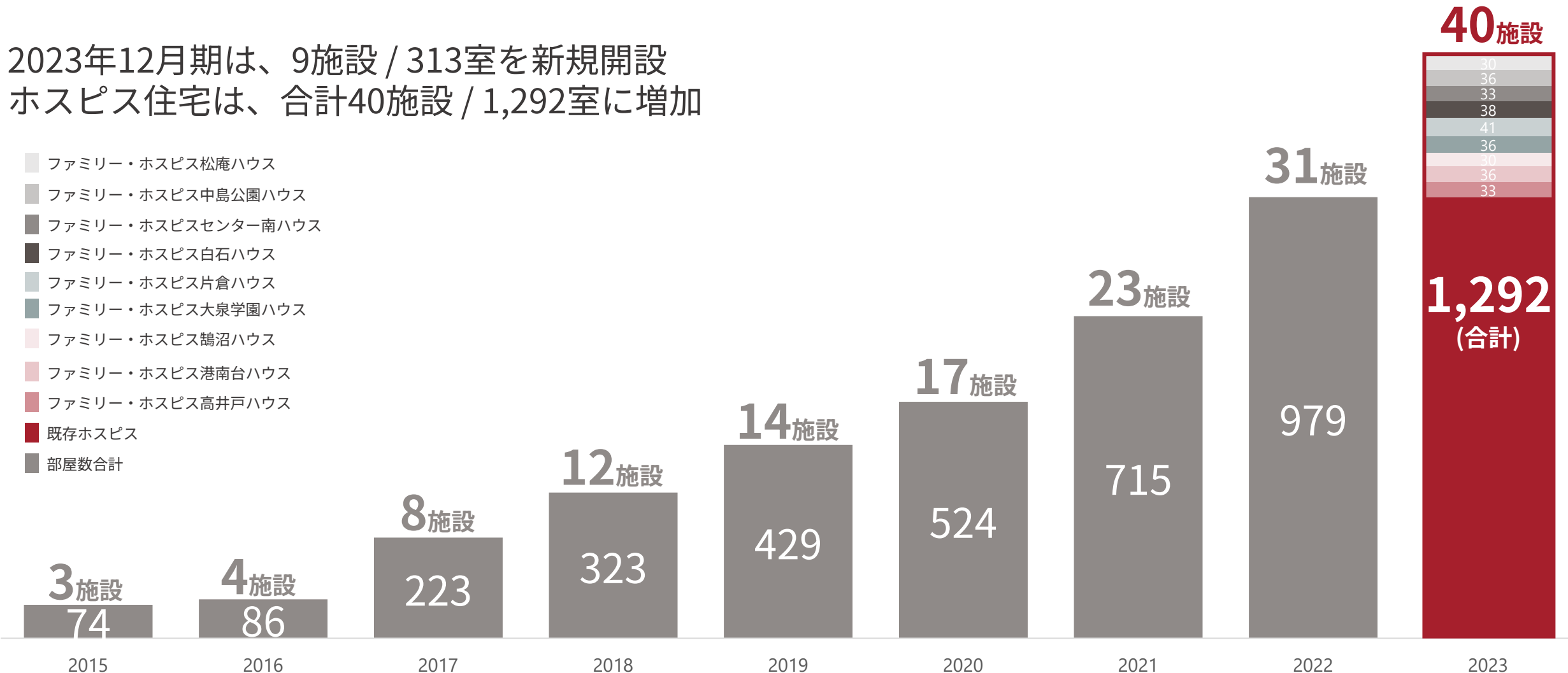
(単位：百万円)



# 施設数・部屋数・平均入居率の推移

2023年12月期は、9施設 / 313室を新規開設  
ホスピス住宅は、合計40施設 / 1,292室に増加

- ファミリー・ホスピス松庵ハウス
- ファミリー・ホスピス中島公園ハウス
- ファミリー・ホスピスセンター南ハウス
- ファミリー・ホスピス白石ハウス
- ファミリー・ホスピス片倉ハウス
- ファミリー・ホスピス大泉学園ハウス
- ファミリー・ホスピス鶴沼ハウス
- ファミリー・ホスピス港南台ハウス
- ファミリー・ホスピス高井戸ハウス
- 既存ホスピス
- 部屋数合計



## 【平均入居率※の推移】

※ 平均入居率 = 延べ入居室数 ÷ (提供可能室部屋数 × 日数)

- ※ 安定稼働施設 . . . 当社の定義する満床=安定稼働の水準(85%)に到達し、かつ、その状態が安定している施設
- 立上げ過程にある施設 . . . 新規開設後、安定稼働に至る過程にある施設

安定稼働施設	:	88.0%	87.6%	87.1%	84.4%
立上げ過程にある施設	:	62.7%	60.9%	52.9%	48.4%



# バランスシートの状況

(百万円)	2022年12月期	2023年12月期	増減額	増減の主な理由
流動資産	2,947	3,602	+655	
現預金	1,509	1,884	+374	
売掛金	1,361	1,605	+244	
固定資産	8,503	11,557	+3,054	
建物及び構築物	1,857	1,891	+33	
リース資産	5,906	8,348	+2,441	新規ホスピス住宅の賃借開始にともなう増加
資産合計	11,450	15,160	+3,709	
流動負債	1,688	1,885	+196	
一年内返済予定の長期借入金	415	335	△79	
未払費用	489	596	+106	
固定負債	7,725	10,582	+2,857	
長期借入金	1,920	2,420	+499	固定資産の取得に係る借入による増加
リース債務	5,525	7,872	+2,347	新規ホスピス住宅の賃借開始にともなう増加
負債合計	9,414	12,467	+3,053	
純資産	2,036	2,692	+655	
(非支配株主持分)	(26)	(-)	(△26)	
負債・純資産合計	11,450	15,160	+3,709	
自己資本比率	17.5%	17.7%		

※百万円未満を切り捨てて表示しています。

# 2024年12月期 業績予想

# 2024年12月期 連結業績予想

(単位：百万円)

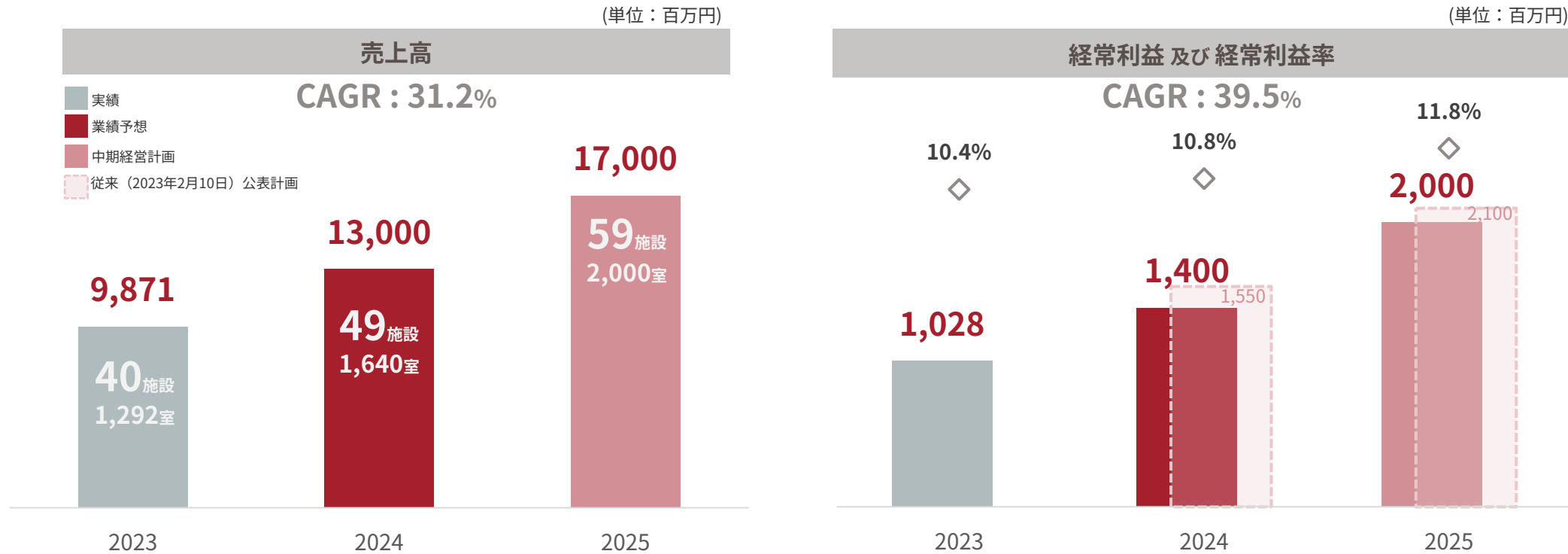
	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率 (%)
売上高	7,894	9,871	<b>13,000</b>	+3,128	+31.7
営業利益	959	1,283	<b>1,650</b>	+366	+28.5
経常利益	782	1,028	<b>1,400</b>	+371	+36.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	454	681	<b>880</b>	+198	+29.1
1株当たり 当期純利益 (円)	56.73	84.81	<b>109.16</b>	—	—

# 2024年12月期 新規開設ホスピス

年度	名称	所在地	2023年12月期				2024年12月期			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2023年	ファミリー・ホスピス高井戸ハウス	東京都杉並区	33室							
	ファミリー・ホスピス港南台ハウス	横浜市港南区	36室							
	ファミリー・ホスピス鶴沼ハウス	神奈川県藤沢市		30室						
	ファミリー・ホスピス大泉学園ハウス	東京都練馬区			36室					
	ファミリー・ホスピス片倉ハウス	東京都八王子市			41室					
	ファミリー・ホスピス白石ハウス	札幌市白石区				38室				
	ファミリー・ホスピスセンター南ハウス	横浜市都筑区				33室				
	ファミリー・ホスピス中島公園ハウス	札幌市中央区				36室				
	ファミリー・ホスピス松庵ハウス	東京都杉並区				30室				
部屋数合計						1,292室				
2024年	ファミリー・ホスピスタマプラーザハウス	横浜市青葉区					34室			
	ファミリー・ホスピス西新井ハウス	東京都足立区						49室		
	ファミリー・ホスピス国立ハウス	東京都国立市						34室		
									38室	
									36室	
									37室	
									45室	
									38室	
								37室		
部屋数合計						1,640室				

※本日現在、詳細を公表していない施設については、賃貸借契約等を締結するタイミングで、その施設名称・所在地等の具体的な情報をお知らせいたします

# 中期経営計画（～2025年）

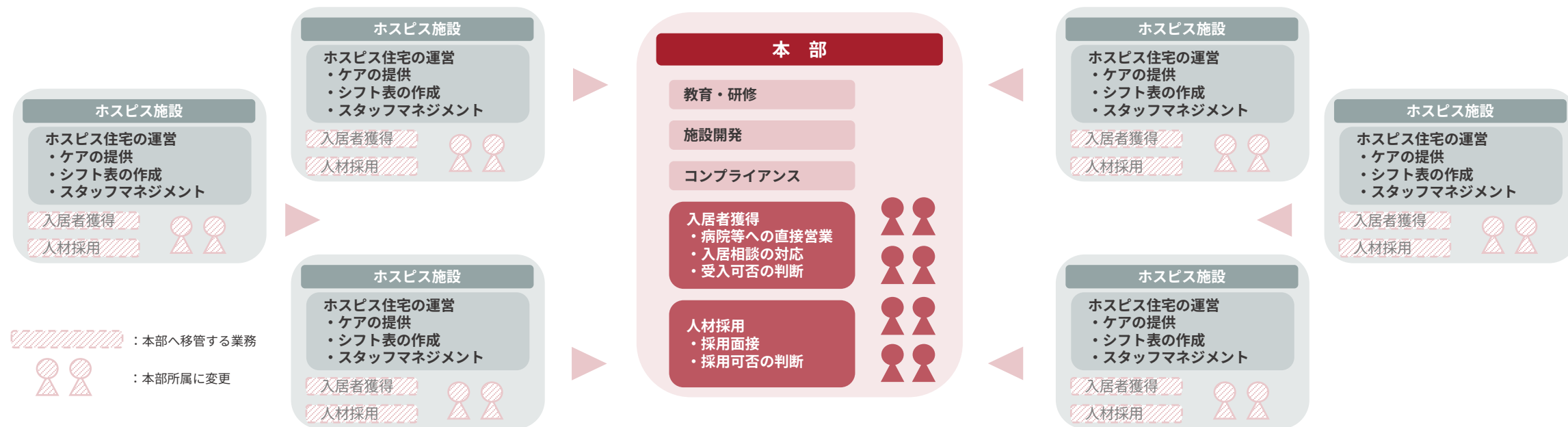


- ▶ 中長期成長を確実にするための本部体制への移行プロジェクト（次頁14P）によって、一時的な稼働上昇スピードの低下やコスト増が予想されるものの、本部体制の実現による業務効率の向上や、マネタイズしていない訪問サービス（各施設の5%～10%）の見直し等により、外部環境の変化に柔軟に対応し、持続的な利益率向上を実現
- ▶ ご利用者1人あたりの医療従事者数（≒**1.3人**）や、看護師の**約10%**が上位グレード資格者（がん専門看護師等）という圧倒的な緩和ケア品質と、それを支える研修・教育の更なる充実
- ▶ スギホールディングス株式会社との資本業務提携により、緩和ケア品質の更なる向上を図るとともに、ネットワークを活用することにより施設展開を促進

# 施設主導型から本部管理体制への移行

スギHDとの提携効果も含め、成長スピードが計画を上回る可能性を考慮し、居室数が2,000室、3,000室になる現中期計画の先のステージを見据え、本部管理体制により問題解決のスピードアップ化を図る

業務内容	施設主導型	本部管理型
ホスピスケアの提供等	施設主導（ホーム長）によるきめ細やかな管理を継続し、地域密着サービスを実現	
入居相談・採用面接	間接スタッフを施設に固定配置する事で機動的な対応ができる一方、これらの業務量は日々変動するため、施設数の増加に伴い、全社レベルでの生産性が低下（ <b>非効率</b> ）	本部に専門スタッフを配置する事で業務効率を高め、エリアごとのノウハウを蓄積 → <b>業務効率の向上</b>
稼働変動やスタッフ離職に対応した人員配置	近隣施設間で協力してきたが、スタッフ離職による受入上限数の見直し（ <b>機会損失</b> ）や、入居制限等によるサポートスタッフの余剰（ <b>余剰コスト</b> ）が発生しやすい	サポートスタッフを本部所属として、広域での最適化を図る → <b>機会損失と余剰コストの削減</b>



# 当社の優位性① 立地要件について（展開の容易性）

ホスピス住宅の開発に必要な立地要件等は決して厳しくない

開発に必要な要件	当社グループの ホスピス住宅	一般的な 老人ホーム
居室数	20～40室	50～80室
土地面積	200～400坪	500～800坪
立地（駅からの距離）	重視しない	とても重要
候補地の競争度合	あまり競争しない	多くの業種が競争

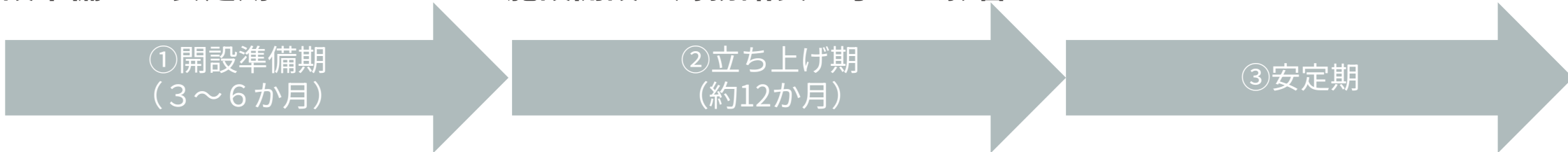
※ 当社グループでは、原則として土地オーナーが建築したホスピス住宅に対して賃貸借契約を締結しております  
 →CAPEXを必要としない

- |                  |   |                     |
|------------------|---|---------------------|
| あまり大きくない土地の活用が可能 | ▶ | 土地活用のひとつとして提案が可能    |
| 建築投資額を抑えた展開が可能   | ▶ | 土地オーナーの負担が小さい       |
| 立地条件をシビアに選ぶ必要がない | ▶ | 開発候補地の選択肢が多い        |
| 開発案件獲得における競争が少ない | ▶ | 効率的な案件の獲得 & 適切な条件設定 |

開発に必要な不動産情報のボリューム、  
 土地オーナーの費用負担において優位性があり、  
 一般的な老人ホーム等に対して、全国展開が容易



## 開設準備から安定期へのプロセスと施設開設が財務諸表に与える影響



**ホスピスチーム作り**

- ・ 役職者（施設長等）決定、教育研修
- ・ スタッフの採用
- ・ 医療介護制度・コンプライアンス教育研修

**入居者の受入の開始**

- ・ 稼働率の段階的向上
- ・ 月次損益の黒字化
- ・ 地域ネットワークへの浸透

**入居者数、稼働率の安定化**

- ・ 累積損益の黒字化
- ・ 看取り数の増加
- ・ 地域からの信頼積み上げ



### 新規開設によるBSへの影響

【実質】 約30年間の賃貸借契約により毎月賃料を支払うのみ（開設時にCAPEX不要）  
 【形式】 リース会計に基づき、施設の見積建築コストを資産・負債に計上

資産（リース資産）	：	◆	資産計上	（減価償却による減少）
負債（リース債務）	：	◆	負債計上（リース資産と同額）	（賃料支払により減少）
損益	：	◆	－（開設準備～）	◆ +（単月黒字以降～）
自己資本	：	◆	－（開設準備～）	◆ +（累積でプラスに転換～）

## 当社の優位性② 業界を代表する看護師が多く参画



**梅田 恵** (ファミリー・ホスピス(株) 執行役員副社長 品質管理責任者)

がん看護専門看護師（2000年認定）。淀川キリスト教病院及び昭和大学病院にて緩和ケアに従事した後、昭和大学大学院保健医療学研究科の教授を経て、2019年4月に当社入社。執行役員として、ホスピスケアの質向上とホスピスチーム作りを統括。



**田村 恵子** (社外取締役)

淀川キリスト教病院にて、緩和ケアに従事した後、京都大学大学院医学研究科の教授に就任。2023年4月より大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構事業化推進研究センター教授に就任。緩和ケアにおける看護師の第一人者として、ホスピスケアの普及のため、当社グループの社外取締役として経営に参加。

その他にも、**専門看護師・認定看護師**が数十名在籍  
質の高いホスピスケアサービスの提供が可能に

※看護師全体の中で、専門看護師はわずか0.1%（約3千名）、認定看護師は1%（約2万名）

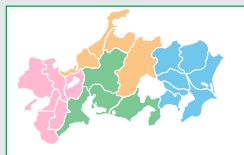
出典：公益社団法人日本看護協会「データで見る専門看護師」「データで見る認定看護師」、厚生労働省「令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」

# 当社の優位性③ スギホールディングスとの提携

2023年6月16日付で資本業務提携を締結。ホスピス事業の展開促進と緩和ケア品質の向上を目指す。

## スギHDネットワークの活用により展開を促進

### スギHDの店舗網



- 関西エリア 562店舗
- 北陸・信州エリア 83店舗
- 中部エリア 575店舗
- 関東エリア 469店舗

グループ合計 **1,692**店舗  
(2023年12月末)



## 緩和ケア品質の更なる向上

- 専門性の高い看護師に強みを持つ当社グループと、多数の薬剤師が在籍し専門性が高い訪問調剤に強みをもつスギHDとの協働により、実現が可能
- 患者様体験を一気通貫でサポートする体制を構築することで、今後の市場拡大が期待されるスペシャリティ医薬品の応需体制を強化

### スギHDの調剤に関する強み

- ◆ スギ薬局における調剤併設率は業界トップレベル
- ◆ 在宅医療への取り組みが進んでいる（訪問調剤対応）
- ◆ スペシャリティ医薬品への取り組み
- ◆ 専門薬剤師によるサポート体制

資本業務提携後、以下の目的ごとに2社合同の分科会を立ち上げ、それぞれ、毎週もしくは隔週ごとに実施

### ① ホスピスの認知度向上

#### 将来の稼働向上

##### 具体例

- スギ薬局調剤カウンターへのチラシ、ポスター設置
- 地域の急性期病院（主にガン末期・難病患者）に対する共同営業の実施と応需体制の検討
- 医療機関やケアマネジャーの相互紹介
- スギ薬局のアプリやスギ店舗のデジタルサイネージ等の活用を検討

### ② 施設の共同開発

#### 事業成長の加速

##### 進捗状況

- 中期計画に含まれていない施設候補の検討
- 中計計画に含まれている開設予定ハウスに、スギ調剤薬局の併設を検討
- 新たな医療連携モデル（ex.スギドラッグストアに隣接したホスピス施設等）の検討

### ③ 緩和ケアの品質向上

#### ご利用者の満足度向上

##### 進捗状況

- 看護師及び薬剤師の連携強化による専門性強化
- 薬剤師による専門指導による最新の薬剤情報のアップデートやホスピス施設内における薬剤管理品質の向上
- スギ薬局のおもてなし便（お薬と一緒に日用品もお届けするサービス）の活用による入居者への物販サービスの充実

# Appendix – 1

## 会社概要

## 会社概要

- 社名 : 日本ホスピスホールディングス株式会社
- 本店所在地 : 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル2F
- 代表者 : 代表取締役 高橋 正
- 資本金 : 378百万円 (2023年12月末日時点)
- グループ会社 : ファミリー・ホスピス株式会社 (東京都千代田区)

## 事業内容

### ホスピス住宅事業



入居者を**末期がん患者**や**難病患者等**に限定したホスピス住宅にてケアサービスを提供しております。訪問看護と訪問介護事業所を併設又は近設しております。

### 訪問看護事業



看護師による訪問看護サービスを提供しています。在宅医と協力して、利用者やその家族の希望に沿い、安心して「おうち」で暮らし続けられる支援をしています。

### 在宅介護事業



訪問看護と併設することで医療的ケアに対応し、「通い」「泊り」「訪問」の3つのサービスを組み合わせた包括的なケアを特長とするサービスを提供しております。

# 当社グループのホスピス住宅

## 【北海道】

ノーザリーライフケア厚別西
ファミリー・ホスピス白石ハウス
ファミリー・ホスピス中島公園ハウス

## 【神奈川】

ファミリー・ホスピス鴨宮ハウス
ファミリー・ホスピス本郷台ハウス
ファミリー・ホスピス四之宮ハウス
ファミリー・ホスピス東林間ハウス
ファミリー・ホスピス茅ヶ崎ハウス
ファミリー・ホスピス江田ハウス
ファミリー・ホスピス大口ハウス
ファミリー・ホスピス本牧ハウス
ファミリー・ホスピス二俣川ハウス
ファミリー・ホスピス港南台ハウス
ファミリー・ホスピス鶴沼ハウス
ファミリー・ホスピスセンター南ハウス
ファミリー・ホスピスタマプラーザハウス※

## 【愛知】

ナーシングホームJAPAN
ナーシングホームOASIS
ナーシングホームOASIS南
ナーシングホームOASIS北
ナーシングホームOASIS志賀公園
ナーシングホームOASIS知立
ナーシングホームOASIS藤が丘
ナーシングホームOASIS天白野並
ナーシングホームOASIS金山

## 【東京】

ファミリー・ホスピスライブクロス
ファミリー・ホスピス成瀬ハウス
ファミリー・ホスピス池上ハウス
ファミリー・ホスピス二子玉川ハウス
ファミリー・ホスピス成城ハウス
ファミリー・ホスピス荒川ハウス
ファミリー・ホスピス代田橋ハウス
ファミリー・ホスピス西台ハウス
ファミリー・ホスピス高井戸ハウス
ファミリー・ホスピス大泉学園ハウス
ファミリー・ホスピス片倉ハウス
ファミリー・ホスピス松庵ハウス
ファミリー・ホスピス西新井ハウス※
ファミリー・ホスピス国立ハウス※

## 【京都】

ファミリー・ホスピス京都北山ハウス
-------------------

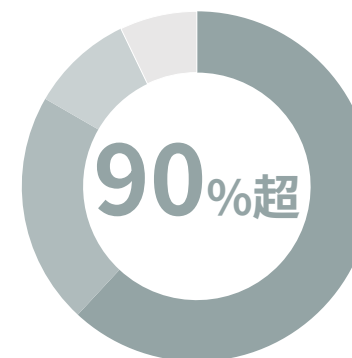
## 【大阪】

ファミリー・ホスピス平野ハウス
ファミリー・ホスピス豊中ハウス

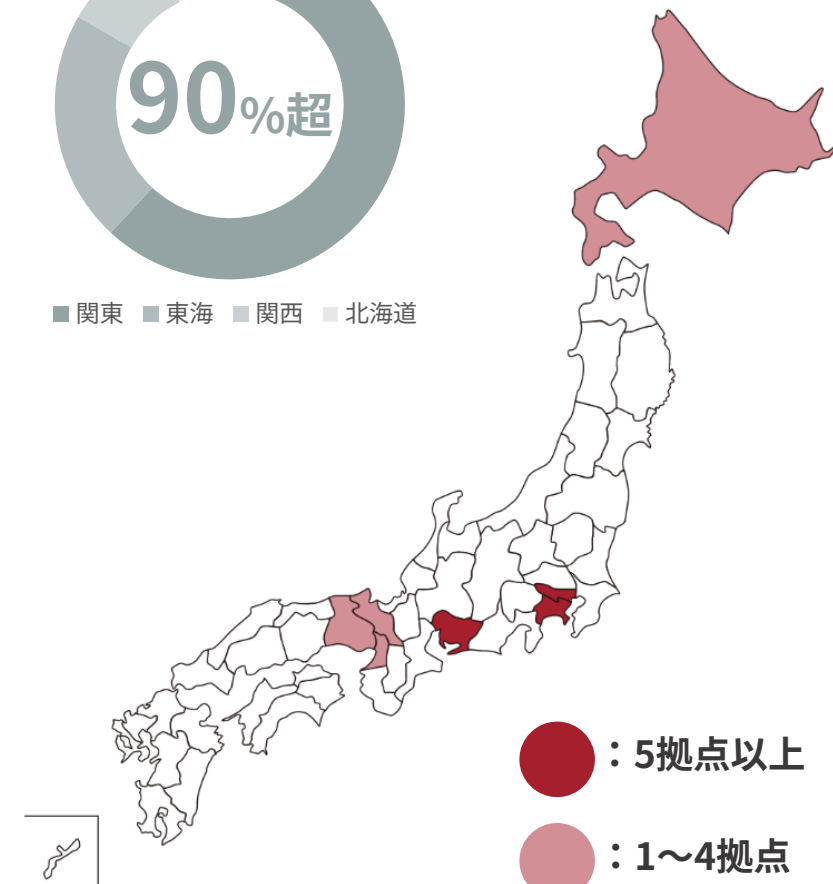
## 【兵庫】

ファミリー・ホスピス神戸垂水ハウス
-------------------

## 三大都市圏への施設展開比率



■ 関東 ■ 東海 ■ 関西 ■ 北海道



※今後OPEN予定のホスピス住宅

# 合計：43施設 1,409室

(2024年2月13日時点、OPEN予定を含む)

当社グループは、増加する看取り難民を解消するために

## 終末期ケアのイノベーションと普及

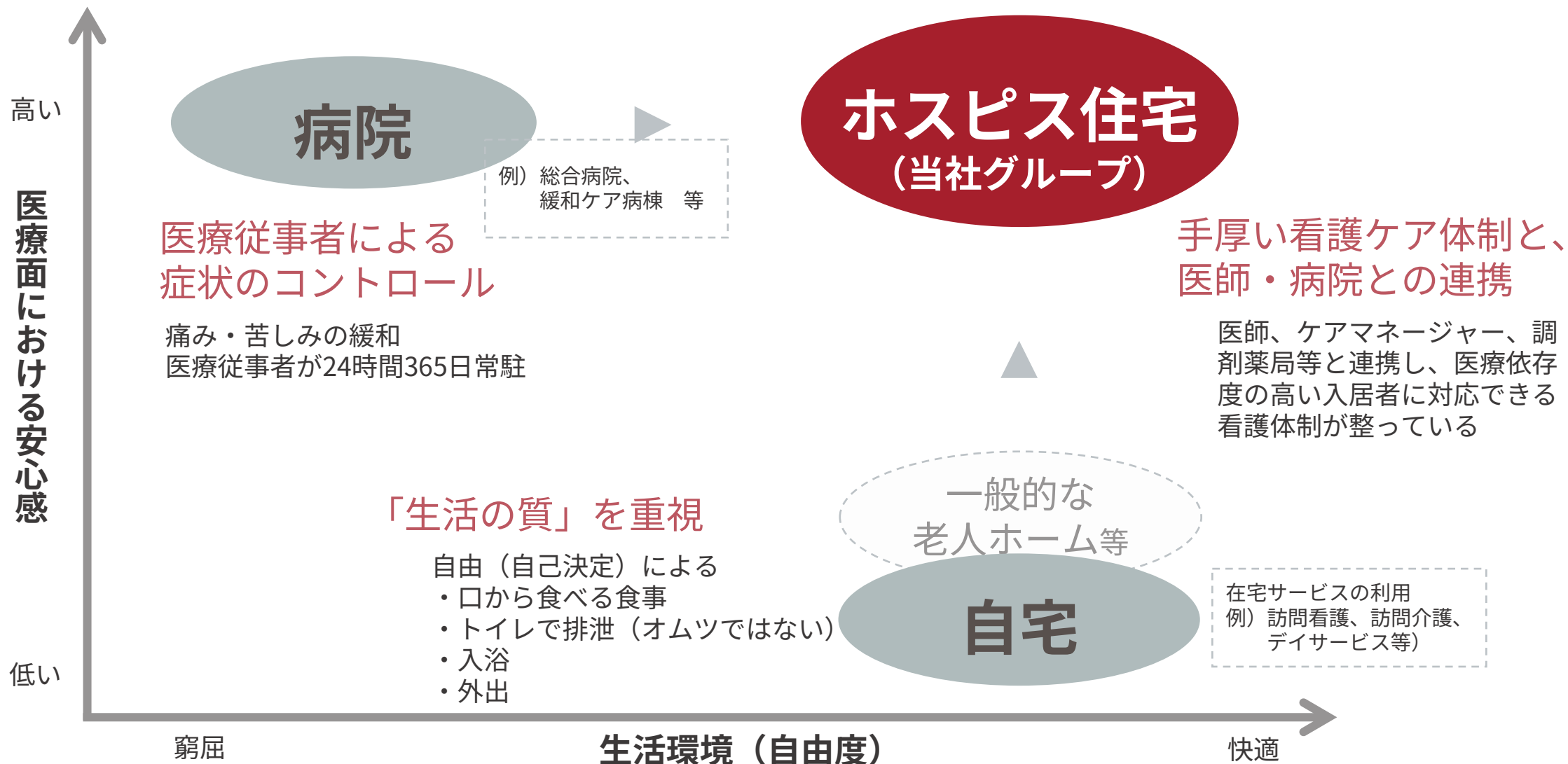
を目指すグループです

当社グループの3つの特徴

- 1 「**ホスピス住宅**」を拠点とした生活の質へのこだわり
- 2 「**看護師**」を中心とした多職種チームによる医療ケア
- 3 「**3つの制度**」を活用した高付加価値モデル

# 「ホスピス住宅」を拠点とした生活の質へのこだわり

① ホスピス住宅は「**自宅の快適さ**」と「**病院の安心感**」の両方が実現可能な場所



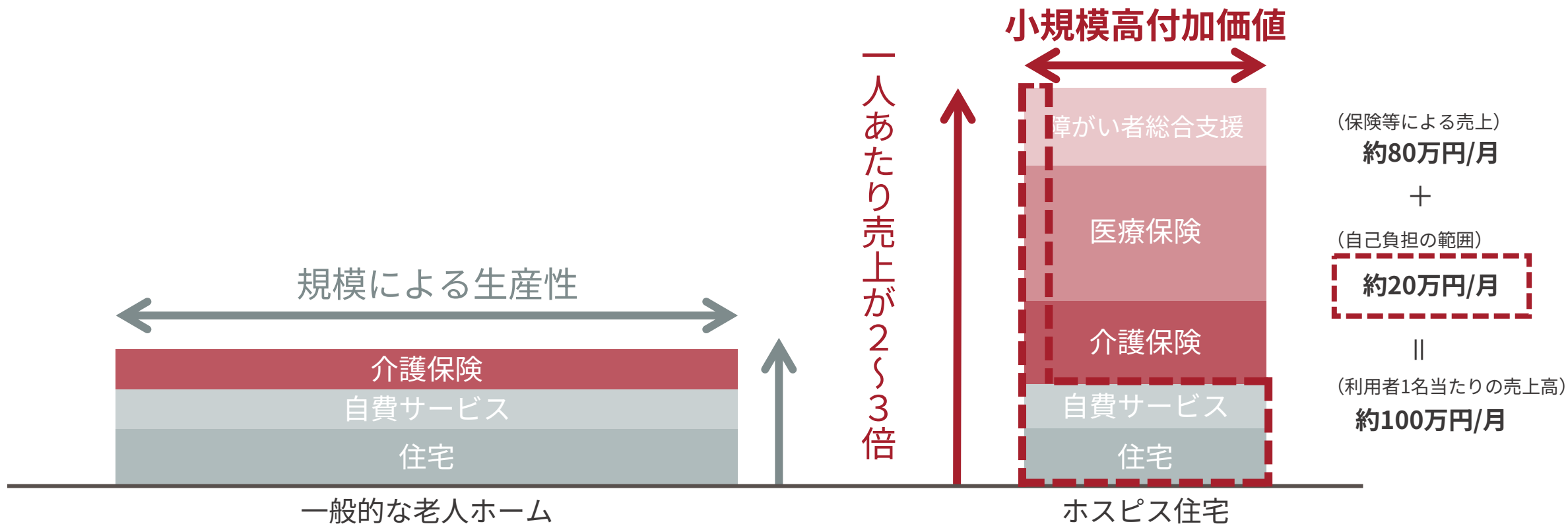




# 3つの制度を活用した高付加価値モデル

## 3 規模による生産性 vs 小規模高付加価値

- ・サービスの質・難易度が違うことにより利用者一人あたり売上高が異なる
- ・サービスの質を維持するため大規模施設（多数の利用者）は適さない



# 「達成」を積み上げるのが在宅ホスピス

当社グループのサービスは、  
残された時間を大切にし、艶やかに生きる支援をするためのもの

達成

友人に会いたい！

温泉に行きたい！

桜の時期だから  
お花見がしたい！

カウンターで  
お寿司を食べたい！

孫の結婚式に出席したい！

個人の希望に寄り添い、希望を叶え、「達成」を積み上げていく

**ミッション** 在宅ホスピスの研究と普及

**理念** 増加する看取り難民を解消するため在宅ホスピスを推進

## 社会課題解決型=ESG企業

長寿で得られた時間をどう生きるか、その行く末の「死」とどう向き合えば良いのか。医療技術の進歩により実現した長寿によって得られた時間を豊かに過ごせる「笑顔」溢れる社会を目指し、そのために在宅ホスピスの研究と普及を行います。

企業理念を実現するために、ESG企業として事業を展開することが、結果としてSDGsの目標達成につながると考えています。

※ESG：環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）



日本ホスピスホールディングスグループは  
持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

ホスピス人材育成・チーム作り

ホスピスの普及・地域ネットワークへの貢献

## 1 ホスピスの研究と普及



### ● ホスピスケア品質向上のため、様々な形態（居室数・厨房の在り方等）に挑戦します

- ・施設ホーム長を中心とした安心できるホスピスの実現
- ・入居者を第一に考えた生活の質（食と住）へのこだわり
- ・きめ細かいケアサービスの提供を可能とする30室前後の居室数
- ・ホスピスチーム作りによる施設の全国展開
- ・外部機関との共同研究によるホスピスケア品質の向上（ex. 横浜市立大学との共同研究の実施）

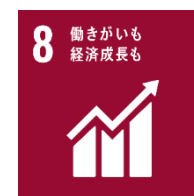
## 2 地域医療ネットワークへの貢献



### ● 複合型サービスの提供により、地域医療ネットワークへ貢献します

- ・看護小規模多機能型居宅介護の併設
- ・ご自宅への訪問看護サービスの提供

## 3 ホスピス人材の育成と女性の活躍



### ● 教育研修の充実により、ホスピス人材の育成とチーム作りを推進します

- ▶ 専門看護師・認定看護師がグループに数十名在籍
  - ・看護師全体の中で、専門看護師はわずか0.1% (約3千名)、認定看護師は1% (約2万名)
- ▶ 緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための、看護師教育プログラム等を実施
  - ・当社看護師が、看護師 (社内外問わず) を対象に、講師やファシリテーターとして開催 (ex. ELNEC-J、ホスピスコミュニティ)
- ▶ 緩和ケアを代表する看護師が経営に参画

梅田 恵 (ファミリー・ホスピス(株) 執行役員副社長 品質管理責任者)

がん看護専門看護師 (2000年認定)。淀川キリスト教病院及び昭和大学病院にて緩和ケアに従事した後、昭和大学大学院保健医療学研究科の教授を経て、2019年4月より当社グループの執行役員として参画。

田村 恵子 (社外取締役)

淀川キリスト教病院にて、緩和ケアに従事した後、京都大学大学院医学研究科の教授に就任。2023年4月より大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構事業化推進研究センター教授に就任。緩和ケアにおける看護師の第一人者として、ホスピスケアの普及のため、当社グループの社外取締役として経営に参加。

### ● 女性が活躍できる環境を整備し、高い女性管理職比率を維持します

- ▶ 新たなやりがいの場を提供し、看護師の多様な働き方を実現

# Appendix – 2

## ホスピスを取り巻く環境

- 1 死亡人口の増加（2039年には年間死亡者数が167万人に）
- 2 増大する社会保障費 ▶ 病床機能の見直し
- 3 受入施設が**不足**
- 4 末期がん患者、難病患者の増加により、「**難民化**」が進行
- 5 **死生観の変化**
  - ▶ 診療・薬価を定期的に抑制するという処置のみならず、新たな社会システム・医療インフラ = 地域包括ケアシステムの構築が急務
  - ▶ その一翼を担う在宅ホスピスへの期待



# 増加し続ける死亡者数、不足する看取りの環境

年間の死亡者数は増加し、ピーク時の2039年には**167万人**に達し、65歳以上の割合が**約35%**になると予想されている

▶ 1

増大する社会保障費の打開策として、病院から在宅を中心とした医療への転換

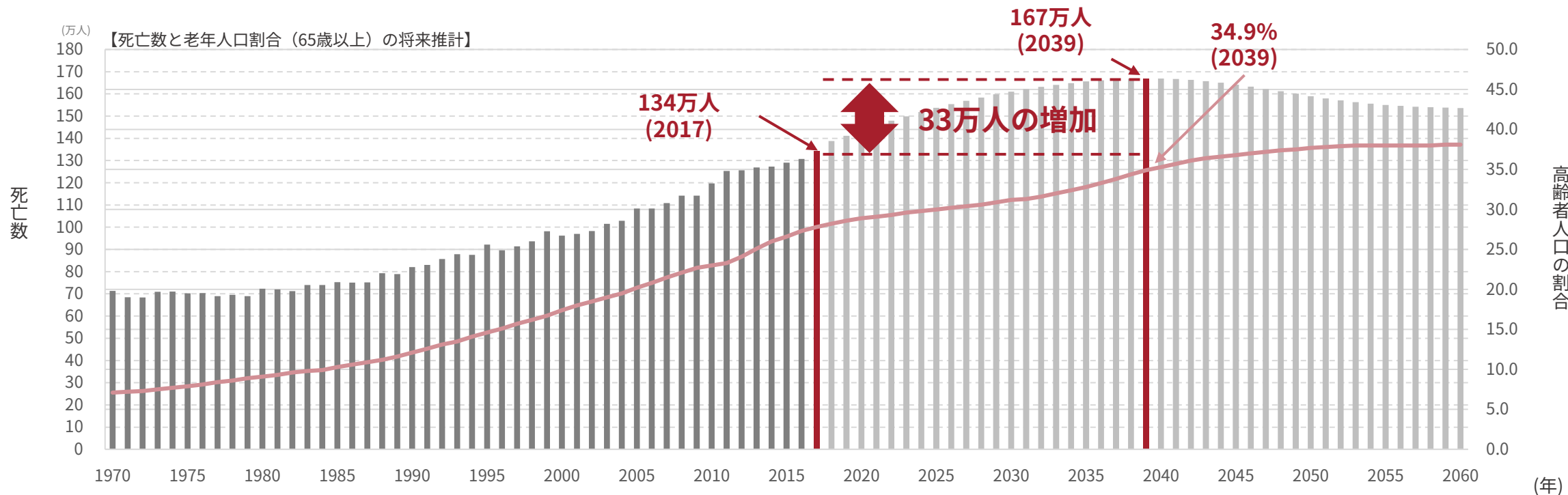
▶ 病床機能の変化

▶ 2

一方で、死亡者数は増加が予想される

▶ 受け皿不足で、さらに年間約30万人が「看取り難民」になる恐れ

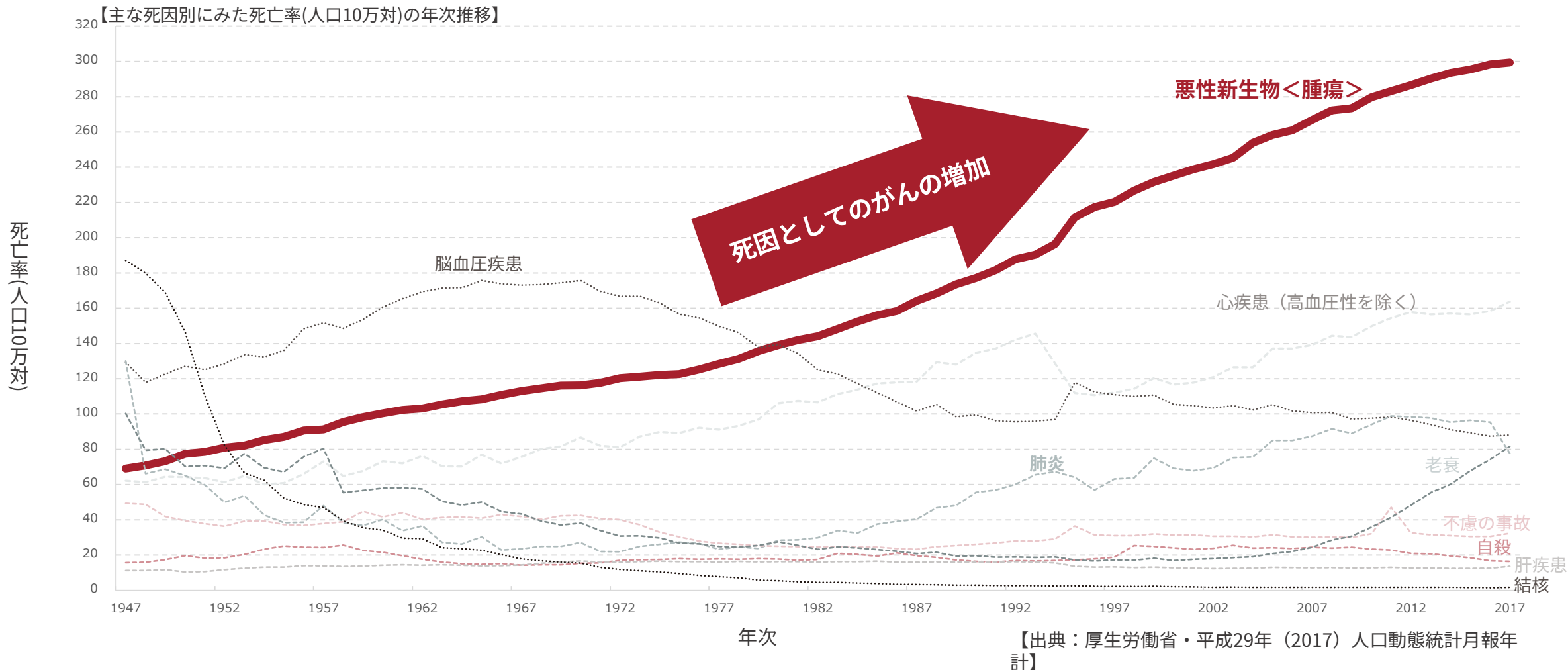
▶ 3



【出典：平成28年版厚生労働白書  
 2017年以前：厚生労働省政策統括官付人口動態・保健社会統計室「人口動態統計」  
 2018年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」】

# 増加し続けるがんによる死亡者数

1981年に死亡原因の1位となり、現在、全死亡者に占める割合が**28%**となっている  
 ▶ 年齢が高くなるほどその割合が高くなるため、高齢化により増加し続けている

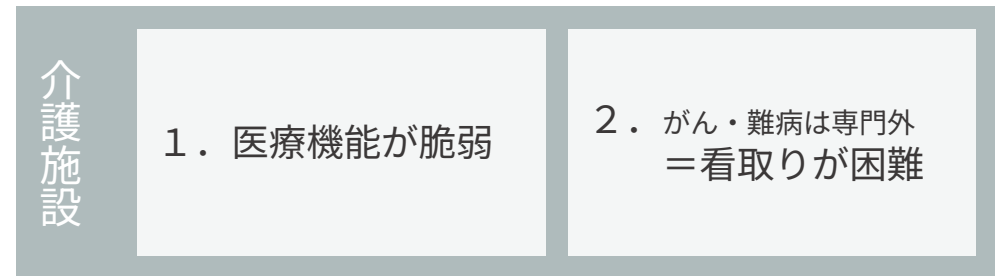


末期がんによる死亡者数：年間37万人

難病患者数：国内に推計約90万人  
(指定331疾病の合計人数)



早期退院



死因者数1位のがん患者、難病患者(338疾病)は増加する一方、  
「慢性期、終末期医療を必要とする患者の受入先が不足している」という事実

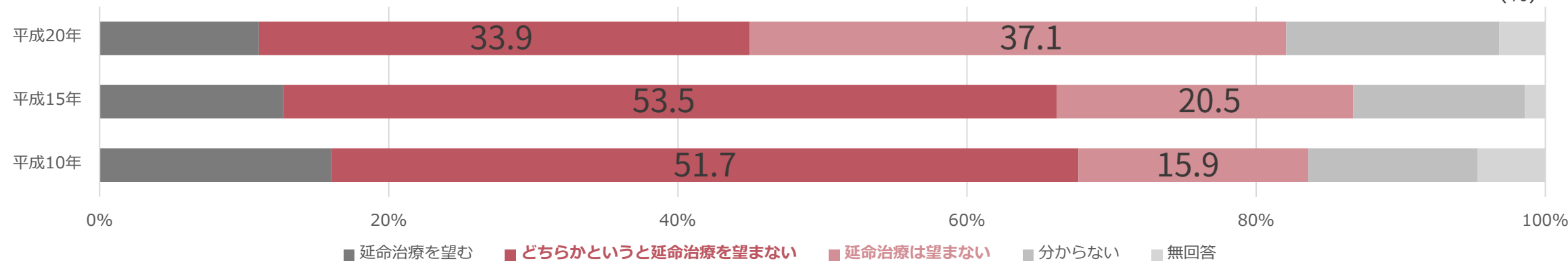
▶ 深刻な**看取り難民化**

# 「死」への向き合い方のパラダイムシフト

**65%以上**が延命治療を望まず、平穏死へのニーズは高まっている

▶ 5

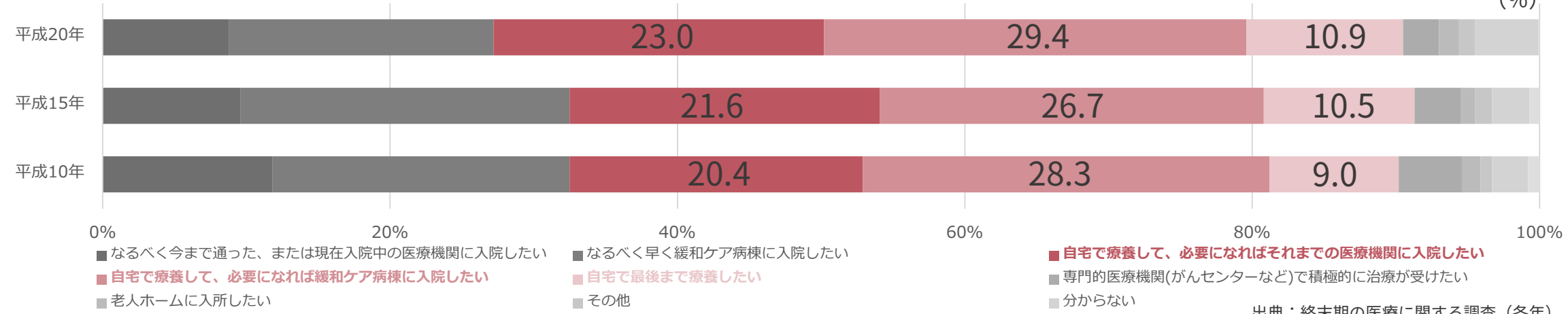
【治る見込みがなく死期が迫っていると告げられた場合の延命治療】



出典：厚生労働省 人生の最終段階における医療に関する意識調査

日本人の**60%以上**が終末期を「**在宅で療養したい**」と回答

【終末期を過ごしたい場所】



出典：終末期の医療に関する調査（各年）

# Appendix – 3

## 成長戦略

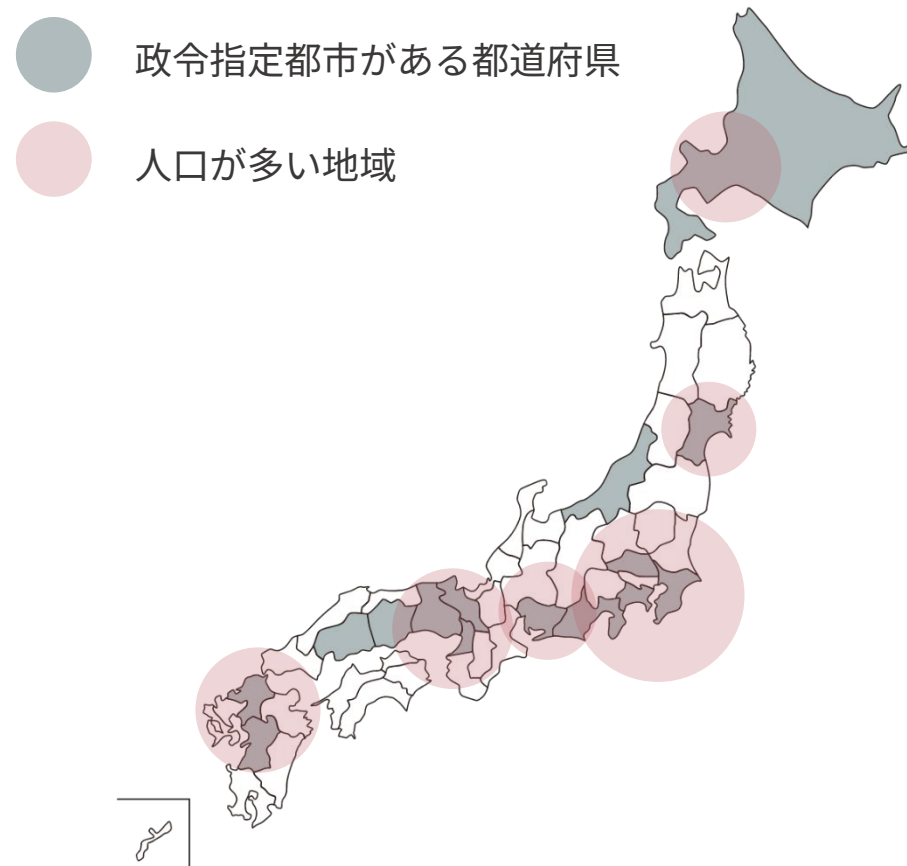
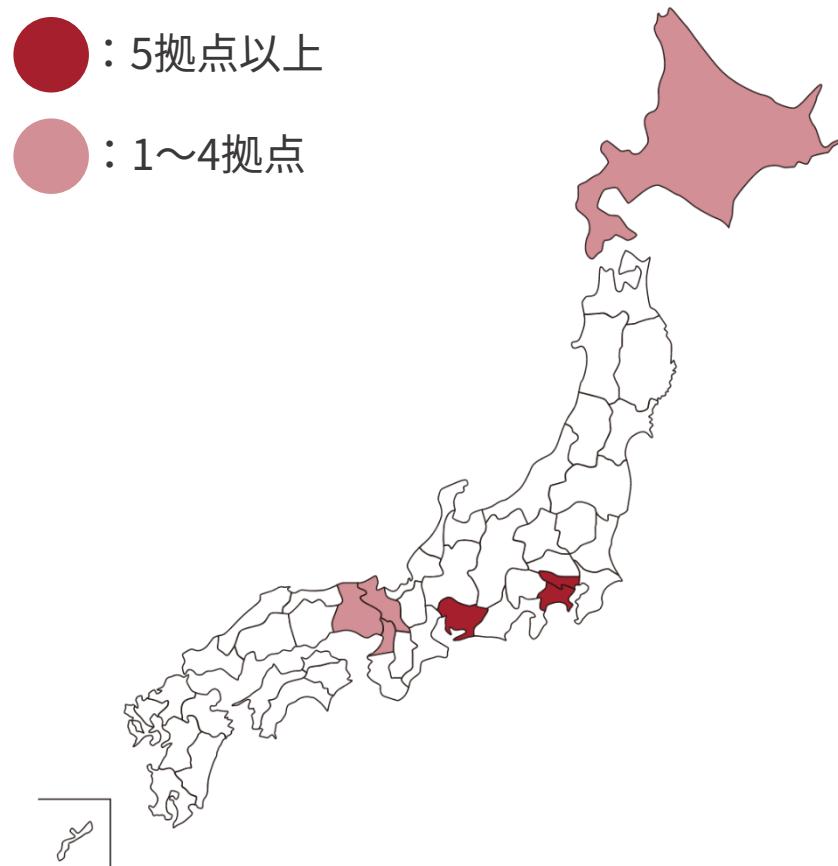
豊富な施設展開余地



看護師の採用力



## 施設を展開する余地が全国にある



**43施設 1,409室** 2024年2月13日現在 (OPEN予定を含む)

医療制度改革によって看護師の労働環境は変化している

早期退院の促進によって、  
患者と寄り添う時間が短くなり、  
看護師のやりがいが見出しにくい

病院

自宅  
訪問

病院勤務に慣れた看護師には  
負荷が大きく、ハードルが高い  
(24時間対応、1人での訪問など)



**寄り添う医療(緩和ケア)に特化**  
医師との役割分担を明確にし、  
看護師へ「**やりがい**」の提供

**ホスピス  
住 宅**

**多職種連携チーム**  
それぞれの能力を補完することで、  
「**安心して**」働くことが可能



**看護師の採用における強み** となる





住みなれた街  
住みなれた家

大事な人と  
親しい人たちと  
そして、一人でも

全ての人  
人生の最期の時まで  
安心して、楽しく  
暮らせる社会

「街がホスピスになる」

当社の描く未来です

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

**<お問い合わせ先>**  
**日本ホスピスホールディングス株式会社**

**電話 : 03-6368-4154**

**メール : [ir@jhospice.co.jp](mailto:ir@jhospice.co.jp)**